

グローバル・マーケット・アウトルック 2026年 資産クラス市場別見通し



マクロ経済および資産クラス別市場見通し

● ネガティブ ● ややネガティブ ● ニュートラル ● ややポジティブ ● ポジティブ

- **米国大型株式**
企業利益の成長は、ここ数四半期において非常に力強いものとなっています。バリュエーションは依然として割高ですが、市場センチメントは中立的な状態にあります。
- **米国小型株式**
力強い利益成長と比較的魅力的なバリュエーションを背景に、投資環境は良好です。金利の上昇と中東紛争の長期化がリスク要因です。
- **米国債**
中東紛争を受けて、国債市場では価格の再評価（リプライシング）が進みました。当社は、バリュエーションはおおむね適正水準に近いとみています。中でも2年物国債はより投資妙味があると考えています。
- **米国社債**
企業のファンダメンタルズは健全ですが、クレジット・スプレッドは現時点では十分なリスク対価を提供していません。
- **欧州株式**
エネルギー価格の上昇により、短期的には成長見通しにやや下押し圧力がかかっていますが、当社は企業利益の堅調な成長が続くとみています。
- **英国株式**
英国の経済環境は依然として非常に厳しい状況にあります。株式のバリュエーションには、そうした悪材料の多くがすでに織り込まれていると思われます。中東紛争が長期化した場合、エネルギー関連資産への高いエクスポージャーはプラス要因になると考えられます。
- **アジア太平洋地域の株式**
日本株は、良好な経済環境に加え、コーポレート・ガバナンス改革による自己資本利益率（ROE）の改善を背景として、魅力的な投資機会を提供しています。オーストラリア株式は、おおむね適正に評価されていると思われます。
- **新興国市場の株式**
力強い利益成長と相対的に割安なバリュエーションを背景に、魅力的な投資機会が存在しています。また、米ドルがさらに下落すれば、それも追加的な追い風となるでしょう。
- **不動産／インフラ**
インフラ資産は、地政学的ショックが発生した際の有効な下支え役として機能する可能性があります。実物資産のバリュエーションは株式よりも魅力的ですが、債券と比較すると逆風に直面しています。
- **米ドル**
地政学的緊張の高まりを受けて、短期的な見通しは以前より不透明になっています。中期的には、割高なバリュエーションを踏まえると、再び下落基調に転じると予想しています。
- **プライベート・エクイティ**
日本および中国を除くアジアや中東など、米国以外の市場における投資機会が拡大していると考えています。セクターでは、防衛および防衛関連技術が注目分野となっています。
- **プライベート・クレジット**
ベース金利が高水準にあることから、シニア担保付融資およびアセット・ベース・レンディングが選好されます。当社は、欧州のダイレクトレンディングに魅力的な投資機会があると考えています。

本資料に記載された見解は2026年6月16日時点のものであり、将来の結果を保証するものではありません。詳細な開示事項については2ページをご参照ください。

IMPORTANT INFORMATION

本資料は情報提供のみを目的としており、投資助言、または証券、ファンド、運用戦略等の購入・売却の勧誘または提案を構成するものではありません。また、本資料に含まれる情報は、特定の投資家の投資目的や個別の状況を考慮したものではありません。本資料に記載された一般的な情報に基づいて行動を起こす際には、必ず有資格の専門家から投資助言を受けるようにしてください。

本資料に示されたいかなる意見の表明は、発行時点におけるラッセル・インベストメントの見解であり、善意に基づき提供されています。また、記載されたすべての意見は、予告なく変更される可能性があります。本資料に含まれる情報および意見に関して、ラッセル・インベストメントおよびその関係者は一切の責任を負いません。

すべての投資にはリスクが伴い、リターンが常に一定の割合で成長するとは限らず、元本割れを含むマイナス成長が生じる可能性があります。過去の運用実績は将来の成果を示唆・保証するものではありません。本資料に示されたいかなるシナリオは、過去のデータに基づき将来のパフォーマンスを推計したものであり、正確な予測指標ではありません。

株式投資の価値は、発行企業の活動、市場全体の状況、または経済情勢に応じて変動します。中小型株への投資は、通常、大企業に比べて市場規模が狭く、経営資源や財務基盤が限定的で、製品ラインの多様性も乏しいため、より高いリスクを伴う可能性があります。また、中小型株は流動性が低く、市場での売買が困難な場合もあります。

一般に、オルタナティブ投資には高いリスク（元本喪失の可能性を含む）が伴い、流動性が低く、他の投資に比べて報酬等が高く設定されていることがあります。ヘッジ戦略およびプライベート・キャピタル投資は、登録された投資商品とは異なり、規制要件の対象外となる場合があります。ヘッジ戦略ではレバレッジやその他の投機的手法が用いられることがあり、これにより損失リスクが高まる可能性があります。

債券投資においては、金利リスク、信用リスク、デフォルトリスク、デレーションリスクなどを十分に考慮する必要があります。ハイイールド債（「ジャンク債」）やモーゲージ担保証券に投資するポートフォリオでは、ボラティリティの増加、流動性の制限、繰上償還、支払い停止、デフォルトリスクの上昇など、より高いリスクが内在しています。特にサブプライム・モーゲージにエクスポージャーのあるモーゲージ担保証券には注意が必要です。

本資料は、EMEA（欧州・中東・アフリカ）地域においては、プロフェッショナル・クライアント（適格機関投資家）向けの内容です。

Copyright © 1995-2026 Russell Investments Group, LLC. All rights reserved.

2026 Global Market Outlook

CORP-13093